
朝を目指して

塩分とりすぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝を目指して

【著者名】

N4147G

【作者名】
塩分とつすぎ

【あらすじ】

何もする事がなく、ただダラダラと時間を潰して日々を過ごしていく

I (前書き)

頑張つて書きます

何もする事がないというはある意味で一番厳しい事で
病気なら布団に入つてずっと寝ていればいいかもしけないが
元気な体だとそうもいかないもんだ

雨も降つていなければ、風もない

こんな日にただボーッと家で過ごすは何とももつたいたい気がした

まあ、そんな事を言つてもあの人の場合

雨が降つても傘がある

風が吹いても飛ばされる訳でもない

こんな感じだつたから、基本的に家にはいない
朝は早くから出かけ、夜は遅くに帰つてきた

食事も外ですませるから、初めから彼の分の支度されてないし
風呂も一番最後に入った

家のもんは、みんなとっくに寝ているので

帰宅した時はいつも電気もなく暗かつた

ただ、どんなに遅く帰宅しても

飼っている犬だけは、いつも出迎えてくれるのだった

こんだだから、家のもんと顔を会わせるのは朝飯の時ぐらいだった
しかし、それも數十分程度の事でこれといった会話もない

たまに会話しても、一言田には

「今日は早く帰つてきなさい」と言われるのが分かつていたので

別に会話しなくとも気にもせず、むじろそつちの方はよかつた

といひで、毎日こんなに長い間出かけて何をしているのかと尋ねると別にこれといった事はなにもしてなかつた

行くあてもなく、プラプラと歩き

コンビニで立ち読みするだの

公園のベンチにただ座つてボーッとするだのといった感じでただ、ありあまる時間をダラダラと潰しているだけだった

趣味がないと、一日の時間がとても多く感じるものでわざと次の日になれど、つい考えてしまつ

傍から見れば贅沢な事はあるが

あの人からすれば、忙しくて時間が足りないといつている人に自分の一日の時間を売つてしまいたい気持ちだった

なので、寝る時が最高の楽しみであり

早く夜になれ、夜になれと

夜を楽しみに生活していたも同然であった

それでも、夜は自然にくるもんでも今日も何とか寝る時間になつた

朝になるとまた、時間を潰さなければならぬ
そう考へると、憂鬱になつたが

今日の所はさつさと寝てしまつ事にした

— (後書き)

ありがとうございました

ガタガタという音で目が覚めた
風で窓が揺れた音だ
気持ちのいい目覚めではなかつたが
目が覚めたので仕方がない

このままもう一眠りしようかと思つたが
もう一時過ぎ

あまり寝すぎても体に悪いので、この辺で起きる事にした
いつものように、携帯電話を開いてみたが
やはり一通もメールは来ておらず
もつここれで、一週間になる

よくわからない勧誘メールや
迷惑メールさえ彼を見放したのか
そういうメールえない

別に誰かから遊びの誘いなんかがこないかと期待している訳ではない
ただ、なんとなく朝起きたら見てしまっただけだった

毎日、晴れた日も雨の日も
ずっと家で過ごしていたらする事がなくなるのも当然であり
そうなつてくれば、今度はそのする事を外に期待するのも
また当然であった

しかし、ずっと家でダラダラと過ごしてきたので
急に一人で外に行くという事が出来ない

外に行くためにはきっかけが必要だった
小さな事でも構わない
とにかく、体と外へと向かわすような
きっかけを待つしかなかつた

とはいっても、こんな生活なので
ほとんど、人との交流がない
それで、そんなきっかけを期待しても
とても難しい事で、まず起こりえない

こんなダラダラとした生活でも
パソコンやテレビがあれば
ニュースや情報なんかは知ることが出来るので
誰かと会つても話題にする話は結構あつた

しかし、誰にも会わないのだから
いくら話題があつても意味がない

やはり、今は話題よりも何よりも
とにかく、きっかけが必要だつた

今日と昨日では、一日しか違ひがないのに
今日はやけに日が長く感じた

とにかく、いつまでたっても外が暗くならない
外で遊んでいる人から見れば、ありがたい事かも知れないが
家でただ時間が潰れるのを待っているだけでは
とても迷惑な事だった

昨日ならとっくに暗くなっていた空も
まだまだ明るい
結局、この後30分以上も明るいままだった

昨日と今日の違いはたった1日
しかも、月も変わっておらず、昨日と同じ3月
それなのに、どうして一日でここまで差が出てしまうのだろうか・
・

不思議に思つたが
だからといつても、どうする事もできないし
5分程度でその疑問も消えた

食事を済ませ、風呂に入り

自分の部屋へと戻ってきた頃にはもう真っ暗で
いつものように待っていた「夜」がやってきた

得にする事もなく、ベットに横になり
もう何度も読んだかわからぬ漫画を読み始めたが
すぐに飽きてしまい

そのまま部屋の明かりを消した

ピカツ・・・・・ピカツ・・・

何かが光っている事にすぐに気が付いた
机の上の携帯電話が着信を知らせていた
もうずっと光っていない、あの着信を知らせる光が

今、確かに部屋の中の一 定の間隔で照らしている

どうせいつも下らないメールだと
相手にしなかつたが
このままでは明るくて眠れないので
仕方なく、携帯を開いてみた

「明日お暇ですか？」

短く言葉はあるが
自分へと向けられた確かな内容だった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4147g/>

朝を目指して

2011年10月5日20時25分発行